あしたのために

四日市市立朝明中学校
１年生学年通信
令和２年２月６日（木）
その 103　　文責（浅野）
１年生終了まで３２日

自主自立！

自立

～自己を確立し、自らの考えに基づいて判断批判し、自身の力で生きること～

先週の人権学習は新田先生による「自立と共生」をテーマにしたお話でした。みんなは小さい頃から「自分のことは自分でできるように」とよく言われてきたのではないでしょうか。また、自分でできるようになりたいと願って成長してきたはずです。中学生になった今、自分で考え、判断し、行動したいという思いが一層強くなっているのです。

自立には『**生活的自立**（身の回りのことを自分で行う）』『**精神的自立**（日常にある問題に対して自分で判断し意思決定する）』『**社会的自立**（社会の一員として責任ある行動をとり、人との関わりの中で合意形成する）』などがあることを習いました。他にも『経済的自立（収入を得てそれを自己管理する）』『性的自立（自分の性だけでなく他者の性を尊重した責任ある行動をる）』があります。人は自立して生きていきたいと願いつつも、一人ではできないことや生きていけない時もあります。私たちは**他者に支えられながら他者を支える**関係（共生）の中で暮らしているのです。

《参考》「社会的自立」に向けて－選挙権年齢の引き下げ－

平成 28 年 6 月 19 日に選挙権年齢をこれまでの「20 歳以上」から「18 歳以上」に引き下げる改正公職選挙法が施行されました。このことにより、高校生の中には選挙権を行使する人もいるということになります。「社会的自立」の第一歩として社会に参画する主体としての自覚と責任が高校生にも求められているのです。

自然界の在り方は「弱肉強食」ではなく「適者生存」である、という話を聞いたことがあります。肉食獣のライオンが、草食動物のシマウマや鹿を襲います。そこには、食う者と食われる者の対立があるのです。自然界において、強いものが弱いものを食べて生きる、と思われていますが、実際には、肉体が強くても環境の変化についていけない（自立できない）ものはあっという間に死に絶え、逆に、弱くても環境の変化についていける生き物は増殖していきます。弱肉強食が自然の摂理だとすると、陸の上はライオンだらけになるはずなのです。ところが、決してそうはならず、多くの個体を生存させているのはむしろ、弱者であり、自然界のバランスを保っています。これが適者生存なのですね。

さらに自然界全体を見ると、食物連鎖という一種の共生関係が存在しているのです。シマウマや鹿を、より強いライオンが食べるという、そこだけみれば弱肉強食なのですが、頂点に位置するライオンが環境の変化についていけなくなり死ねば、最も小さな微生物などがこれを分解します。適者生存と食物連鎖という大きなつながりによって、共生的な循環システムが成立しているのです。

人間界でも相手がいることで自分も成長できるという、共生社会でなければなりません。まず大切なことは自立です。互いに相手を必要とし合う関係が共生ですが、自立しようとしなければ、仲間に加われないこともあります。それが、自立共生の世界です。適者、つまりは社会の様々な変化に対応できる人間（自立）でなければ、共生社会は生まれないのです。